

平成23年度 事業計画書

(平成23年4月1日より平成24年3月31日まで)

財団の収入の大幅な落ち込みによって、昨年度は財団の活動を大幅に縮小した。この財政状況は平成23年度も改善される見込みは薄い。収入の大きな柱となっている基本財産運用収入は昨年度とほぼ同程度と推定されるが、債権の買替え益等の施策により若干の収益増を見込み、基本財産運用収入を2520万円に設定し、今年度より助成事業の再開を実施して、公益法人の許認可申請を行い、事業計画を提案する。

I 助成関係の事業

停止していた事業を一部再開する。

予算額 1,000万円/年

1. 粉体工学に関する研究のための研究費助成（研究助成）
2. 粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞（KONA賞）
3. 粉体工学に関する学会、シンポジウム等の開催費の援助

II その他の事業（財団自主事業）

1. 粉体工学に関する講演討論会の開催

① 予算額 350万円（前年度予算は350万円）

② 趣旨・内容

粉体工学の当面の重要課題を選び、第一線の研究者（5～6名）から最近の研究成果について講演していただき、その課題に関心の深い研究者・技術者の参加を募集する。講演と討論を通じて粉体工学の発展に資することを目的とする。

毎年1回、会場は大阪・東京において隔年開催を原則とする。

（本年度は大阪において開催の予定）

③ 経費および用務の分担

本講演討論会の企画（テーマの設定、講演者、討論の司会者の選定等）については、粉体技術談話会運営委員会（10数名の大学教授等をメンバーとする委員会）で、会長は増田弘昭（京都大学名誉教授）に委託する。参加費はすべて無料とし、会場費、講師謝礼、旅費、宿泊費およびテキスト印刷費などの予算を計上する。

2. KONA誌の発行

① 予算額 650万円（前年度予算は650万円）

② 趣旨・内容

KONA誌は当財団が年1回発行する粉体工学に関する英文の学術誌であり、世界中の研究者から粉体の科学及び工学に関する研究論文およびレビューを集め、これらを編集して発行し、全世界の関連する研究者、研究機関、図書館などに広く無償で配布している。KONA誌はインターネットを通じて無料でダウンロードすることもできる。平成22年6月からJournal Citation ReportにKONAのインパクト・ファクターが収録される。なお、No.28(2010)の掲載記事数は16篇、242頁で600部を印刷・発行した。

3. 年報の発行

① 予算額 80 万円（前年度予算は 80 万円）

② 趣旨・内容

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果を公表するために発行される。年報は以下の内容を含む。

(1) 理事長挨拶

(2) 役員等名簿

(3) 研究成果報告

平成 23 年度の年報に報告される研究成果は平成 22 年度以前の助成研究からなる。

以 上